

# 平成29年度事業計画

## I 基本方針

最近の畜産をめぐる情勢は、飼料穀物の国際価格が需給緩和を背景に安定して推移しているものの、円安等により生産資材が高止まりし、畜産経営に大きな影響を与えている。また、畜産物の価格は、総じて高相場を維持しているが、天候や伝染病の影響に加え、飼養頭数の減少による生産基盤の脆弱化による要因が大きく、今後も予断を許さない状況である。

また、長年の懸案事項であったTPP（環太平洋経済連携）協定については、トランプ米大統領の登場により発効が見通せなくなり、今後の貿易交渉がより厳しいものになることが懸念されている。食料自給率40%の我が国にとっては、畜産物を含む食糧の安定的な供給の上でも、非常に重要な課題となっている。

家畜衛生面では、近隣諸国において口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の悪性伝染病が継続的に発生する中、国内においても高病原性鳥インフルエンザが7道県10農場において発生した。本県でも野鳥からウイルスが多数分離されるなど、引き続き大きな不安材料が存在していることから、一層の家畜防疫・衛生体制の充実が求められている。

こうした情勢を背景に、国は平成28年度補正予算においても、畜産関連には手厚い予算を措置し、畜産クラスター事業をはじめ中核的な担い手に対する重点的な各種施策を推進している。

このような状況の下、本会は平成25年度から公益社団法人に移行して4年が経過し、今後も社会から求められる公益事業を効果的かつ効率的に実施する必要がある。

そのため、畜産情勢や行政の施策展開を的確に捉えるとともに、会員団体や関係方面との有機的な連携を図り、地域と調和した安定的な畜産経営を継続するための支援をはじめ、畜産経営の基盤となる経営安定対策、畜産収益力強化対策、担い手生産者や指導者の育成、家畜防疫対策、畜産物を介した消費者との交流や相互理解、並びに各種畜産情報の提供等に取り組み、本県における畜産の安定的な発展と、消費者に信頼される安全で安心な「あいちの畜産物」の安定生産・供給に寄与する。

## II 事業の実施

### 1 公益目的事業

#### (1) 公1 畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業

牛肉の輸入に係る事情や、生産資材価格の状況の変化等が、国内肉用牛生産にもたらす影響を緩和するため、肉用子牛の価格が低落した場合や肥育経営における粗収益が生産コストを下回った場合に経営損失補填金を交付して、肉用牛の再生産が確実に実施されるように措置をし、消費者に安定的に牛肉を供給する。

##### ア 肉用子牛生産者補給金制度

- ・目的 肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、補給金交付契約を締結した肉用子牛生産者に対して肉用子牛の平均売買価格が基準価格を下回った時に、販売若しくは保留をした子牛に対して補給金を交付する。

(平成27年度から第6業務対象年間～5年間)

- ・財源 平均売買価格が保証基準価格を下回り合理化目標価格まで：農畜産業振興機構10/10  
平均売買価格が合理化目標価格を下回った額の9/10：生産者積立金1/4、農畜産業振興機構1/2（生産者積立助成金：肉用子牛生産者積立金補助

金)、愛知県1/4(生産者積立助成金：肉用子牛価格安定対策事業補助金)  
その他の財源：手数料等

<平成29年度保証価格及び合理化目標価格(単位：円)>

品 種	保証基準価格	合理化目標価格
黒毛和種	339,000	282,000
その他肉専用種	221,000	150,000
乳用種	136,000	93,000
交雑種	210,000	152,000

・ 個体登録計画

品 種	頭 数(頭)	積立金造成計画(円)	備 考
黒毛和種	1,040	1,248,000	機構 1/2 県 1/4 生産者1/4
その他肉専用種	10	124,000	
乳用種	2,250	14,400,000	
交雑種	4,650	11,160,000	
計	7,950	26,932,000	

イ 肉用牛繁殖経営支援事業

- ・ 目的 肉用子牛生産者補給金制度における肉専用子牛飼育経営体への補完事業として、肉専用子牛の平均売買価格が、発動基準を下回った場合に差額の3/4の支援交付金を交付する。
- ・ 財源 補助財源は農畜産業振興機構100% 肉用牛繁殖経営支援事業補助金(肉用子牛生産者補給金制度加入が条件)

<平成29年度発動基準(単位：円)>

品 種	黒毛和種	その他肉専用種
発動基準	460,000	300,000

ウ 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

- ・ 目的 肉用牛肥育経営体が、肉用肥育牛販売に伴う粗収益が生産費を下回る経営収益悪化時に、肥育経営安定特別基金から補填金(差額の8/10)を交付する。  
(第3業務対象年間：平成28年度～30年度)
- ・ 財源 肥育経営安定特別基金(生産者1/4、農畜産業振興機構3/4：肉用牛肥育経営安定特別対策事業補助金)及び手数料
- ・ 肉用牛肥育経営安定特別基金造成計画

品 種	頭 数(頭)	基金造成計画(千円)	備 考
肉専用種	2,800	112,000	機構 3/4 生産者1/4
交雑種	14,400	1,440,000	
乳用種	3,000	312,000	
計	20,200	1,864,000	

## (2) 公2 畜産経営の安定・向上と畜産の理解醸成に関する事業

国際化の進展や国内産地間競争の激化、畜産生産コストの上昇などで厳しさを増す畜産経営等に対して、経営や技術の改善のための適切な指導や情報提供を実施するとともに、消費者に対して畜産物の理解を深めてもらい、畜産経営等を支援する。

ア 畜産経営体の経営・技術指導に関する事業

- ① 地域畜産支援指導体制強化(愛知県補助金、地方競馬全国協会補助金、(公社)中央畜産会(委託金・助成金)、図書斡旋収入等)

- ・ 畜産経営支援に必要な指導を実施し、当協会のホームページを畜産ネットワー

ク（LIN）上に開設し、畜産経営に係る各種の情報提供を逐一実施する。

- ・ 県内の畜産関係団体と近況把握、情報共有等のために連絡調整会議や講習会の開催、各種調査を通じて情報を把握し、畜産経営支援・家畜衛生指導の実施組織体制を強化する。
- ・ 家畜の登録事業を支援し、県内優良家畜生産を強化する。
- ・ 経営技術指導の一環として図書斡旋販売も実施する。

② 畜産特別資金推進指導（（公社）中央畜産会補助金）

- ・ 畜産特別資金借受者の経営改善計画の履行を図るため、経営・技術両面から現地指導を実施するとともに、県段階で設置している協議会において、現地指導の成果と改善指導方法について検討、協議を行い、指導の効果を上げる。

対象農家：大家畜経営改善支援資金借受農家

畜産経営維持緊急支援資金借受農家

③ 畜産近代化リース貸付指導（（公財）畜産近代化リース協会委託金）

- ・ 畜産経営合理化のために畜産近代化リース協会の貸付事業で設置された、機械施設の適正かつ効率的な利用指導・技術指導を行なうとともに、リース事業の普及啓発資料の作成を行う。

④ 畜産クラスター機械導入体制強化（（公社）中央畜産会委託金）

- ・ 畜産酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）の機械導入事業の円滑な実施を図るため、県域窓口団体として事業推進会議の開催や提出書類の審査等を実施し、中心的経営体の収益性向上に資する。

⑤ 畜産関係団体調整機能強化（（公社）中央畜産会委託金）

- ・ 畜産経営を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、将来にわたり本県の畜産を担う生産者を参集し、地域に根ざした畜産に係る時事の課題等について、生産者や関係団体との意見交換を実施し、畜産関係者の連携及び活性化を図り、畜産振興に資する。

⑥ 農場HACCP取組体制緊急強化（（公社）中央畜産会委託金）

- ・ 農場HACCP認証農場関係者等を講師とした普及のための検討会及び地域の農場HACCP関係者による普及推進のための取組を周知することにより、農場HACCP認証の普及を図る。

⑦ 地域豚疾病緊急対策推進（（公社）中央畜産会委託金）

- ・ 養豚主要生産地域の自営防疫組織において、豚流行性下痢（PED）、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）、オーエスキー病等の生産性阻害要員の排除に取り組み、疾病発生の低減を図る。

⑧ 飼養衛生管理基準等緊急啓発普及促進（（公社）中央畜産会委託金）

- ・ 平成28年度に見直しがされた「飼養衛生管理基準」を早急に関係者に周知・徹底するため、普及資料の配付、説明会等を開催し、防疫体制の強化を図る。

⑨ 自衛防疫体制強化推進（家畜衛生対策推進協議会委託金）

- ・ 地域自衛防疫体制を強化するため、防疫演習を実施し初動防疫活動の充実を図る。

イ 馬の飼養衛生管理に関する情報提供及び調査

① 馬飼養衛生管理特別対策((公社)中央畜産会委託金)

- ・ 乗用馬の飼養衛生向上のため、乗用馬関係者を対象に飼養衛生技術講習会や馬獣医療実態調査等を実施する。

ウ 畜産物に関する理解醸成・情報提供(名古屋競馬株式会社寄附金など)

① 畜産物に関する理解醸成・情報提供

- ・ 畜産物の生産者と消費者が直接交流する場や、消費者に本県で生産された畜産物に対する理解を深めてもらうため料理講習会、展示即売会、啓発資料配付を実施する畜産フェスタ(平成29年10月予定)や県内畜産物の品質や安全性に関する啓発により、畜産物消費を促進する畜産フェア(平成29年12月予定)等の開催を通して、消費者に対し県内畜産物に関する相談、情報提供や適切なアドバイスを実施する。

エ 畜産に関する表彰事業

① 高橋養鶏賞顕彰(高橋養鶏賞顕彰事業基金)

- ・ 高橋養鶏賞顕彰事業実施要領・顕彰規程及び選考基準に基づき、養鶏の振興発展に寄与した者を表彰する。

② 家畜品評会等の表彰(自己資金)

- ・ 家畜品評会等の優秀家畜に対し、褒賞を授与する。

(3) 公3 畜産経営支援活動及び家畜防疫を徹底するための経費等に対して助成を行う事業

畜産生産コストの上昇などで厳しさを増す畜産経営に対して、経営改善のための高能力家畜の導入助成、共同生産活動強化の助成及び家畜伝染病発生時の経営再開助成等の支援により安定継続ができる畜産経営を支援する。

ア 畜産経営支援に関する事業

① 地域における肉用牛生産基盤強化等対策((独)農畜産業振興機構補助金)

- ・ 肉用牛生産基盤の強化や肉用牛生産振興を図るため、優良な繁殖雌牛を増頭した地域の中核的担い手生産者に奨励金を交付するとともに、高齢な肉用牛経営者の牛出荷や飼料生産などの労働を支援する肉用牛ヘルパー組織の活動等に対して助成金を交付する。

イ 家畜防疫支援に関する事業

① 家畜生産農場清浄化支援対策(農林水産省補助金及び手数料)

- ・ 家畜の伝染病清浄化に向けた組織的な伝染病発生予防活動として、牛のヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)、牛白血病の感染拡大防止対策、畜産農場における飼養衛生管理の向上に向けた取り組み、アカバネ病の流行防止対策など家畜生産者による自主的な疾病対策を支援する。

② 家畜防疫互助基金造成等支援(助成(独)農畜産業振興機構補助金)

- ・ 口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病が万が一発生した場合、経営再開に向けて畜産経営への影響を緩和するため、中央団体に生産者積立金（1/2）と農畜産業振興機構助成金（1/2）により造成した基金から互助金を交付する。  
（基金設定は3年毎：平成27～29年度）

### ③ 海外悪性伝染病対策支援(自己資金)

- ・ 海外悪性伝染病が万が一県内で発生した場合、畜産経営への影響を緩和するため、国・県などの対策の補助対象とならない経費に対して、造成してある海外悪性伝染病対策支援資産より支援する。

### ④ 馬伝染性疾病防疫推進対策（(公社)中央畜産会委託金）

- ・ 馬産地等における伝染性疾病の防疫強化を図るため、乗用馬・農用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種助成及び感染症対策の普及・啓発の検討等を行う。

## 2 収益事業

### (1) 収1 事務室等の賃貸

#### ア 事務室等の賃貸

大津橋ビル(名古屋市中区丸の内三丁目4番10号)の土地・建物について、当協会と一般社団法人大津橋会館が、それぞれ十分の三と十分の七の持ち分(面積比)により大津橋ビル運営委員会を組織するとともに共同管理を実施し、会議室及び事務室の賃貸を実施する。

## 3 その他の事業

### (1) 他1 畜産関係団体の事務局を運営する事業

#### ア 愛知県和牛改良協会の事務局

愛知県内の和牛の登録事業を通じて和牛の改良及び飼養管理の改善を推進する「愛知県和牛改良協会」について、公益社団法人全国和牛登録協会の地方審査員の資格を持つ当協会の職員が専門知識を発揮するとともに中心となって、業務受託により協会の事務局を運営する。